

仁賀保金七(質)郎疫病神詫び証文(疫病払いのお札)

にかほきんしちろうやくびようがみわびしようもん

仁賀保金七郎疫病神詫び証文 特設展示開催中

- ▼期間／12月27日(日)※月曜休館
- ▼時間／9時～17時
- ▼会場／仁賀保勤労青少年ホーム
(斎藤宇一郎記念館)
- ▼入場料／大人150円、小人100円
- ▼仁賀保勤労青少年ホーム ☎35・4711



仁賀保勤労青少年ホーム フェイスブックはこちら

疫病神に謝らせた？

現在、新型コロナウイルスにより感染予防と生活様式の変革など激動の世の中となっておりますが、江戸時代には疫病蔓延とともにこんなものが流行しました。

仁賀保大膳様、仁賀保金七郎様宛ての「疫病神詫び証文」です。これは「疫病神」「悪い流行り病」からお詫びの証明書を書かせたものです。なんとそれを書かせたのが、仁賀保家の実在の人物金七郎だということです。この仁賀保大膳、仁賀保金七郎は中世よりにかほ市を領土とし、江戸時代は幕府旗本を務めていた仁賀保千石家の第5代当主とその息子です。

時は文政3年(1820)のある日、二人組の疫病神が仁賀保家の江戸屋敷に侵入しようとしたところ、その家の息子、金七郎が発見し、疫病神を叱りつけました。金七郎の武勇におののいた疫病神は命乞いをし、お詫び状(下記記載内容)を書いて慌てて立ち去りました。

この話は江戸時代に出版された「竹抓子」や「梅の塵」という書物でも紹介され、悪い病が流行すると人々はこの「詫び証文」を書き写し、家の戸口に貼り付けたり、お札やお守りとして子ども宛てに書いてもらったりと厄除けとして活用しました。なにせ「仁賀保」と書いてある所には金輪際疫病神は入ってこないと約束した証明書ですから大流行です。

実体のない「疫病神」が証明書を書いたということでは物語自体は史実ではなく浮説ですが、証文が厄病除けとされ広まったことは、現在関東に数十点残された古文書から伺うことができます。

栃木県鹿沼市で保存されていた証文は、お札としてわかりやすく流布するため文字を円形に配置した形式の古文書です(現存確認2例)。この度鹿沼市より資料提供いただき複製を仁賀保勤労青少年ホーム展示室(斎藤宇一郎記念館)にて特設展示しています。仁賀保家にまつわる甲冑や家系図、秀吉朱印状なども展示していますので、この機会にぜひお越しください。



入場(ご観覧)の方には仁賀保家の家紋とお札を組み合わせた特製お札ステッカーをプレゼント中!



- 円形文書(判読文)
- 仁賀保 金質郎輝義 疫病神
- ① 差上申一札之事
- ② 一我等兩人不心得二付
- ③ 御屋敷様江入込
- ④ 段々御理解被仰聞恐入奉存候
- ⑤ 我等一命御助け被下候八々
- ⑥ 我等兩人八不及申 仲ヶ間之者迄
- ⑦ 急度申合御屋敷様八不及申
- ⑧ 金質郎様之御名前御座候所江八
- ⑨ 一切立入申間敷候

【現代語訳】

仁賀保金質(七)郎様へ一枚(証文を)差し上げます 私たち二人(疫病神)は屋敷に勝手に入ってしまったが、お叱りを受け反省しましたが、私たちの命を助けてくださいれば、私たちはもちろんのこと仲間にも金質(七)郎様のお名前のある所へは今後一切立ち入らないうと絶対に申し合わせます

疫病神より

栃木県鹿沼市教育委員会所蔵
鈴木成雄家文書【疫病神詫び証文】